PART2　たり・り

たり・り

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	たり							型
	り							型

【意味】

① **完了**（〜た）

② **存続**（〜ている・〜てある）

★〈「完了」と「存続」の見分け方〉

まず「　　　」で訳す。→おかしければ「　　　」。

（例）

あやしがりて寄りて見るに、筒の中光り**たり**。

それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐ**たり**。

〜〜（かぐや姫が成長し、月に帰らなければいけないことを翁に打ち明ける。）
（翁）「（私があなたを）竹の中より見つけきこえ**たり**しかど、…」

『竹取物語』より

問十四　傍線部ａ・ｂの助動詞の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

さすがに仏法を学び<u>し</u>[a]故に、論議問答するなり。
口惜しき道に入れ<u>り</u>[b]。

ア　過去　　イ　尊敬　　ウ　自発　　エ　完了　　オ　強意

ａ＝　　　　ｂ＝

問十五　「いかなるすき者の居<u>たる</u>ならん」の傍線部の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　自発
エ　断定　　オ　使役　　カ　完了（存続）

第9講　PART2　確認問題

①「童（わらは）べの踏みあけたる築地（ついひぢ）のくづれより通ひけり。」の傍線部の活用の種類と活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア　四段活用・未然形
イ　四段活用・連用形
ウ　下二段活用・未然形
エ　下二段活用・連用形
オ　カ行変格活用・未然形

②「御子（みこ）もいとあはれなる句を作り［ a ］るを、…」の空欄aには補助動詞「たまふ」が入る。正しく活用させた語を、次の中から選べ。

ア　たまは　　イ　たまひ　　ウ　たまふ　　エ　たまへ

③「痩骨（そうこつ）の肩にかかれる物先（ま）づ苦しむ。」の傍線部の口語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　かけられた物　　イ　かかってしまった物
ウ　かかっている物　　エ　かけさせる物

④「さりがたき餞（はなむけ）など<u>し</u>たるはさすがに打ち捨てがたくて、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　断定
エ　使役　　オ　完了　　カ　存続

⑤「いといたく思ひあがり、はかなくし出で（い）<u>たる</u>[a]ことわざもゆゑなからず見え<u>たら</u>[b]む、…」の傍線部の語の活用形の組み合わせとして、最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　a＝未然形　　b＝連用形
イ　a＝未然形　　b＝連体形
ウ　a＝連体形　　b＝連用形
エ　a＝連体形　　b＝未然形
オ　a＝連用形　　b＝連体形
カ　a＝連用形　　b＝未然形

第9講　PART2　解答

問十四　a　ア　　b　エ
問十五　カ

第9講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「踏みあけ」はカ行下二段活用動詞。「たる」は完了の助動詞「たり」の連体形で、連用形接続。よって、エが正解。

② 「る」は完了の助動詞「り」の連体形。「り」は四段活用の已然形に接続することから、「たまふ」を已然形「たまへ」に活用させる。

③ 助動詞「る」には完了と存続の意味がある。まず存続（ウ）で訳し、不自然であれば完了（イ）の意でとる。ここでは「痩せて骨ばった肩に……」に自然につながる存続として訳す。

④ 「打ち捨てがた」いものであるので、ここでの「たる」は存続ではなく「餞別などしてくれた」と完了の意で訳す。

⑤ aもbも動詞の連用形に接続しているので、完了の助動詞「たり」の活用したものである。体言「ことわざ」に連なるaは連体形、推量の助動詞「む」に連なるbは未然形。したがってエが正しい。

〔解答〕

①　エ　②　エ　③　ウ　④　オ　⑤　エ